



2学期の始業式で伝えたこと

台風の接近が心配な今日は8月27日(火)。台風の影響により南から吹き込む、湿った温かい空気で朝からどんどん気温が上昇。そんな中、2学期が始まりました。

大人といえどもそこは人間。(また早起きの日々が始まるのか)と、正直ちょっと憂鬱な気持ちだった私に、笑顔と元気をくれたのは、登校してくる子どもたちの「明るく・元気なあいさつの声」でした。やはり、誰かのために・・・、この子どもたちのために・・・と思うと、その気持ちは大きなエネルギーに変わるようです。その事をあらためて実感した私は、始業式で子どもたちに伝えることを決めました。それはなにか・・・。

この夏、みなさんは寝不足になりませんでしたか？私はついついオリンピックを見始めると、やめられない止まらないかっぱえびせん状態になり、寝不足の日々を過ごしてしまいました。

テレビでは、メダルの数をしきりに紹介していましたが、私にはそれよりも強く心に残ったことがあります。それは、インタビューを受けた選手が、必ずといっていいほど応える内容が同じだったことです。

1つ目は、勝敗はついてしまうけれども、共に金メダルを目指し真剣に闘ったライバルへの感謝の言葉です。1つの金メダルを目指して、もてる力のすべてを出し切り競い合うからこそ、そこに価値が生まれる。ライバル無くして、金メダルに価値はないということです。

2つ目は、今まで自分を支え、応援してくれた多くの人々への感謝の言葉でした。自分に負けそうになり、あきらめそうになったとき、そんな弱い自分と闘うエネルギーは、誰かのために・・・という強い思いが力になったと言うのです。

これらを言い換えると、他者との関わりなくして、金メダルに価値は全くないと言っているのと同じことだと私は受け取りました。

2学期、子どもたちにはこうした他者とのつなが

りを大事にして欲しい

- ・仲間と一緒に努力する
- ・よきライバルとして競い合う
- ・競い合った仲間を大切にできる
- ・相手の立場で物事を考えてみる

2学期の多くの行事を通して、こうした他者とのコミュニケーションを大切にできる力を美作第一小学校のみなさんには育てて欲しいと伝えました。

ぜひ、保護者に皆様にも、地域の皆様にも思いを同じくしていただき、他者(子どもたち・学校)の気持ちに寄り添いながら、共に歩んでいただきますようよろしくお願いいたします。

1学期の学校評価から

児童と学校職員がそれぞれ1学期末に、学校生活のふり返しを行いました。児童・職員共に肯定評価が高かった項目(90%が肯定回答)は、「自分の意見や考えを大切にし、友だちと意見交流する」「自分の努力を認めてもらえた」でした。学校が取り組もうとしたことが明確に現れた結果だと考えています。

反対に、児童と教職員の評価に大きなズレが生じた項目もあります。「自分にとって必要な家庭学習を、自分なりに考えて取り組む事ができた」(児85%/教33%)「誰に対しても気持ちのよいあいさつをすることができた/指導をくり返した」(児76%/教95%)また、児童の肯定評価が低いものとしては、「自分が調べたことやまとめたことを発表することができた」(児66%)などが上げられます。こうした点については、再度教育活動をとらえ直し、2学期の学びにつなげていきたいと考えています。

学校評価については、11月に保護者の皆様にもご協力いただく予定にしております。その際にはお力添えをいただきますようお願いいたします。



すごろくを使って、夏休みの楽しい思い出を話し合う子どもたちの様子です。笑い声が響いていました！教室もうれしそう！